（仮称）宮前区「希望のシナリオ」実現プロジェクト
宮前区ソーシャルデザインセンター立ち上げワーキンググループ

全体ミーティング１
令和４（2022）年７月 24 日（日）13:30〜16:30

オリエンテーション｜

これまでの経緯、ワーキンググループの目的と進め方

00：05
石塚計画デザイン事務所　千葉：

- 早足にはなりますがこれまでの経緯を説明させていただきます。
- 今回の件はなんのためにというと「希望のシナリオの実現に向けて」ということで、なにをするっていうのは宮前区のソーシャルデザインセンターの創出ということなんだけど、どっちの言葉も「なんのこっちゃ」という感じだと思います。
- お手元の資料にカラーで２つ折りにしているものがあると思いますけど、この絵がついている資料。これが「希望のシナリオ」ということで、未来の川崎のイメージを絵にしたものになっています。これ、なんかまちのことが描かれているみたいな感じなんですけどよく見ると一個一個、細かいところに地域が開かれて、いろんなことが起こっている。
- 今までって、役所が予算をつけて、建物を管理・運営するというのが昔ながらの感覚なんだけど、役所だけではない。小川さんのところの Tida’s House もそうなんだけど、空き家を改修してみんなが集まれる場所をつくっているとか、もしかしたら公園を使ってみんなができることをやっているとか、まちの中で実にいろんな人が主体になってまちを開いていくみたいな絵だと思ってください。これが「市民創発」という言い方で、川崎市は言っています。
- それが三層による取組の推進という言い方をしていて、地域・区域・市域っていうレベルがあると言っています。地域は小学校区レベルくらいという定義で、区域はまさに宮前区、20 万人くらいの単位。川崎の７つある区域のレベル。そして市域のレベルというのがあって、それぞれに「希望のシナリオ」を実現するための取組があるだろうと定義している。
- 地域レベルは「まちのひろば」。今、申し上げたような絵の中にたくさんいろんな、集まれる場所があって、定義された「これが『まちのひろば』である」なんて言えないような幅広の解釈で、いろんなものが起こっている。これがまちのひろば。
- 今日の本題は「区域」の、宮前区レベルのソーシャルデザインセンターなるものをつくっていこうと、いうものです。川崎—みなさん住んでいてご存じだろうと思いますけど、全然違うんですよね、７つの区って。宮前区と川崎区とかほんとに、同じ市にあるのかって思うぐらい、資源も違います。
- そういう意味では、このソーシャルデザインセンターというのは一律につくるものではなかろうということは、これ［絵］が描かれたときにも語られているんですね。

- 例えば、この「希望のシナリオ」というところには、人や団体・企業・資源・活動をつなぐコーディネート機能とかプロデュース機能、支援のマッチング、そういう機能が挙げられるんじゃないかと。で、各区の特徴に合わせていったらいいんじゃないかと言っているんだけど、どうしたらそれができるかは、特に書いてない。それは手を抜いて書いてないわけではなく、みんなで考えてね、という風に、区にいる人たちに球が投げられているという風に、私は解釈しています。

03：28

- そのためにどうしようってことを考え始めたのが、平成 30 年、2018 年からで、ちょっとコロナで動けなくなった時期があるんだけど、 4 年前から取組をしているんですね。
- ひとつは簡単にいうとまず区のことを知ろうということで、勉強会とか実験室とかを立ち上げて、相関図というのを作ってみました。宮前は、活動がすごい盛んだ、市民活動もすごく多い、と言われるんですけど、具体的に他の区と［比べて］どう多いのかとかっていう情報がふわっとしていて、なんとなく多い、という風に思っていたんですね。なので活動相関図を作ることによって、少しそれが見えてくるだろうと。で、始めたらすごく混沌とした、こんなにあるの？という感じになったんですけど。
- もちろんこのスライドでは全然見えないと思いますが、この一個一個が団体の名前になっていて、たとえば農業の活動、高齢者の活動、障害者の活動、子育てという風に、テーマごとにいろんな団体が関わっている。かつ、テーマとテーマを横断するハブ、つなぎ役みたいな団体さんもいて、そういう団体さんが区内の活動を大きく広げているような感じがする。
- 直感的な部分もこの図を作る時にあるんですけど、ワークショップに関わってくださった人たちが出してくださったものを、まとめていったのが相関図です。
- テーマだけではなくて、この「中間支援」と呼んでるんですけど、活動団体を応援する団体というのもあることが改めてわかりました。先ほどから出ているまちづくり協議会もここに入っています。まちづくり協議会という組織自体に、色々なグループ・活動があって、そういうのもその中での資金支援をしているとか、色々な支援というのがちりばめられているというのが、図にしていったらわかりました。
- じゃあそれを地図にしてみよう、という風にしたのがこれです。今度は地図に入らないものも多いなと。実にいろんな、場所を持つ情報がある。あと場所ではない、どこということではないものも欄外にすごくあって、しかも町内会の見守り活動であるとか地域のすごく細やかな活動に至ってはもう点を打っていったら収集がつかないみたいな活動があるということが改めてわかって。ひとつ見える化をしようとしたんですけれども、かなり幅広にいろんな活動があるってことは改めて確認できたなと思っております。

06：19

- ここで辞めずに、次の年には実際にツアーで現場を見てみようということになりまして、当時企画課におりました大木さんとかが「ちょっとツアーのプログラムを作ります」と言って、見たら 7 時集合、18 時解散みたいなすごいコースが 6 コース出てきました。これすごいのはツアーっていうと、色々見て楽しかったみたいなことになるんですが、実際に一緒に活動して汗を流すみたいなところ

までやるっていうすごいツアーだったもので、ここに参加した人が「話は知ってたけど、挨拶運動とかでも実際挨拶している人ってこういう感じでやってるんだ」とか。

- あと、私は忘れもしないんですけど、町会の回覧板に色々入ってるじゃないですか。あれを全部手伝ったんですけど、2時間くらいかけて、とんでもない量のチラシを回覧板に挟んでいるんですよね。広いところに並べて、みんなでソートをするという作業をしてて、「こういうことをやってるんだ」っていうのが頭では理解していたんだけど、経験すると全然違う、という感じがありました。
- 他のみなさんもそうで、参加してみて、これは本当に資源だよねって思うことっていうのを「資源カード」をつくったり、振り返りというのを丁寧に記録してもらいました。そうすることで、今まで見えてこなかったんだけど、まちの中にこれだけの活動や場所がある。そしてこういう支援が求められているのではないかってことがわかってきて、それを大きく整理したのを6つの柱にしています。

07：58

- この6つの柱というのは、今つくろうとしているソーシャルデザインセンターがやるべきことの柱なのではないかというのがまず仮説、その1です。コロナを挟みまして、昨年令和3年度にそのソーシャルデザインセンター（SDC）がやるべきことの一つがラウンドテーブルではないかという仮説を立てました。
- ラウンドテーブルという言葉は、「多様な主体が協働・連携するプラットフォーム」で、どういうことかというと、多分、まちの中にはこんなことで困っているとか、こういうことがあったらいいって人がいますよね。
- いた時に、ラウンドテーブルなる場所に投げ込まれたとします。その時に今までは例えば区役所の窓口があって区役所が解決するみたいなことがあったりする、あるいはある特定の組織ができることを窓口でやっていたと思うんですけど、いろんな人が入っていることによって組み合わさったり、いろんな知恵を合わせることでの解決策が出せるのではないか、というのがラウンドテーブルのイメージです。
- それにこの6つの柱というのが掛け合わされているというのがラウンドテーブルのイメージなんではないかということで、やっぱり言ってもちょっと分かりにくいので、試しにやってみようということで、3つのラウンドテーブルというのをやってみました。

09：31

- 前にいる西村さんとかにもテーマオーナーというのになってもらったんですけど、要は話題提供をしてもらう。
- ひとつは、宮前まち倶楽部の方何人かいらっしゃっていますけど、宮前まち倶楽部さんが公園で「まちかどシェア」というイベントをやっていたんだけど、それをラウンドテーブルにかけることで、まちかどシェアの情報を、ノウハウを共有し、さらにそれをよくしていきたい、というのが1つ目です。
- 2番は西村さんが出していただいたんですけど、シニアが気軽に立ち寄れる場ってないよね、と。そういう場所は、たとえば宮前版道の駅。と例えば称してつくっていったらどんなことになるんだろうという話題もいただきました。

- もうひとつは、梶ヶ谷のほうにある、コジマビックカメラの場所を使ったコジマルシェというイベントがあるんですけど、そのイベントに出店する団体さんを教えてほしいと相談が来たと。本来なら「民間の話はちょっと」となるところでしたが、ラウンドテーブルにかけて、みんなで検討する、ということをやってみた。
- １の、ラウンドテーブルまちかどシェアの話は、たとえば運営を手伝ってみることで、運営のノウハウをシェアするということができたんですけど、すごく面白かったのはこの公園の活用のガイドラインというのができたこと。あるときは公園を貸してくれるという許可を出してくれたり、ある時は出ない、という許可関係のことがあったりしたときに、ちゃんとこういう活動をすると公園は借りられますっていう仕組みをしっかりこの機会に作ろうという風になって、宮前区が他の区に先駆けてラウンドテーブルをきっかけにこのガイドラインができました。
- 何を言いたいかというと、このさっきのこういう場所のなかで、行政としてできることってそういう仕組みを作ったりすることだということで、行政が活躍したということで、行政主役だとそのようにはなりにくかったのかもしれないですけれど、みんなで考える中の行政ができた、というのが見えた瞬間だったなと思いました。
- 西村さんが出してくださった２つ目の道の駅というのは、つくるとしたらどういうことだろうというゼロベースの議論だったので、みんなでアイデアを出し合ってこんなのもあるかも、あんなのもあるかもというところになります。
- これは実現には至っていないんですけれども、ただ、例えば移動図書館という仕組みがあるので、これを使ったら何か面白いんじゃないか。と思わぬ発想や資源が出てきたということがありました。
- このコジマビックカメラの例というのは民間企業が参加地域とつながっていくという形のラウンドテーブルを介していくと色々できるんじゃないかと、相互理解の機会が進んだというふうに理解しています。
- このラウンドテーブルをきっかけに、今年の３月 19 日から 21 日にコジマルシェ２というのが開催されて、ラウンドテーブルという場所は区役所そのものでもないしある種、中立的な立場だったので、例えばここで決まったコジマルシェで決まったポスターチラシを区役所に置けるようになった。
- 直接区と企業って絡みにくいんですけれども、一回ラウンドテーブルを通った企画ということでプロジェクト扱いになったことによって、民間の資源を活用した取組というのを扱えたというのも、一つの成果かなと思っております。
- 企業にとっても、例えば地域に貢献したいというふうに、どこに相談したら、それができるのというようなことが相談しやすい入り口になるかもしれないというようなきっかけがつかめました。
- という風に、これはお試しで、答えが出るつもりでやっていたわけではないのでいい成果が出てよかったなと思っているんですけれども。例えばいろんなものがここに投げ込まれたら、色々な出口が出てくるだろうというふうに思っております。

13：47

- それと同時に、去年やったのが参加しているみなさんにアンケートを出させてもらって、どんなものがソーシャルデザインセンターなのというのをいただいたんですね。それをもとに作った案が、これになります。

- 説明するのも難しいんですけど、まず多様な主体がつながるというラウンドテーブルというのは真ん中に置かせていただきました。これがまず宮前にあったらいいよねという風に置かせていただいて、だけどそのために課題を収集したり、整理をすることが大事で、こういうことを SDC は取り組むんだよね、という風に書いています。
- 日常的に、例えば多摩区とかは区役所の 1 階に SDC があるんですよ。だから場所があって窓口があって人が座っている SDC もあるんですけど、この絵ではそういう場所があって受付があるっていうふうに実は描いていなくて、相談窓口の場所というのは、色々な物の分担によって行われているんじゃないかというふうに書いています。
- 例えば、空き店舗・空き家を活用した窓口はもちろん、あるいはインターネットを介した窓口があるかもしれない、というふうに窓口を分担しているというものがあるかもしれないと。
- あと団体が地域でのいろんな取組をすることで、そこからお金を生んでいくということもあるかもしれない。例えばイベントから参加費を取ってお金を集めていくパターンもあるかもしれないし、活動を応援するためにクラウドファンディングであるとか、情報発信とかということをお金にしていくパターンもあるかもしれない。川崎は「かわさき市民資金」というコミュニティ財団もあるんですけど、そこのお金を寄附を集めるクラウドファンディングの仕組みもある。こういうものをうまく活用しているっていうパターンもあるかもしれない。
- 結構これは高度ですけど、公共空間の管理運営を受けて、そこからの収入を得るパターン。これはエリアマネジメントのパターンであったりするんですよね。これはかなりマニアックで高度ですけど、管理運営しているところに広告・看板を置くと、そこの広告収入を活動に生かしている。これは札幌市の地下歩行空間の事例ですけれども。お金の稼ぎ方っていうのは難しいところがあって、例えばそういうようなことがあるかもしれない。
- 運営というものが一つの団体にあるというパターンもあるし、いろんな団体が合わさって、これらをみんなで実現していくということが考えられるよねということで、この案のなかでは、複数の団体が運営しているというイメージにしています。その中に区役所が入っているイメージです。
- 今までは区役所がいて「みなさんお願いします」みたいなことだけどそうではなくて、さっきのパイの一つに区役所がいる。ある時は区役所の得意分野なのですごく前に出てくる時もあれば、他の民間の団体がメインになっていることもある。
- それとは別に、やはりこういうことを誰かが後押ししていかないとなかなか進んでいかないところがある。初動期の立ち上げ、まさに今この状況もそうだと思うんですけど、運営状況に応じて区役所ができることというのは、単なる仲間の一つとしてではなく、後押しすべきことはしていくというふうにも書いてあるので。この図の中にも区役所は 2 種類あって、参加者の一人としての区役所。あと、SDC の立ち上げを応援する区役所、というイメージです。
- そして、この SDC に、使う人っていうのが出てきますよね。さっきの「困ってる」とか「なにかしてほしい」とか。そういう人たちがまずこの SDC に声をかけていけるというのは多分、最初は窓口になるとかイベントとかかもしれないけれども、まずこういう人たちがちゃんと関わっていくために、この人たちに届く情報発信をしていく必要もあるし、もう一つ大事なのは運営には関わっていないけど、いつでもこのラウンドテーブルの一つになっていいというこのサポーターがすごく重要。広い意味でのメンバーということですかね。

- 市民団体・企業・財団・区民・区役所も入って、市役所が入ってるみたいなことがこの案のなかにあって、最終的にここを通ってこんな解決策があるよという何かプロジェクトが生まれてくる。
- そのプロジェクトに改めて参加する人もいるかもしれないし、そこに必要なお金を集めていくということはあるかもしれない。これが長期像です。この方法は何かすごく成功しているモデルがあって、それを使って書いているわけではないので、この通りにやったらお金が入るということではありません。この中でどういうふうに現実的に宮前では実現できるか考える必要があるのかなというふうに思っています。

19：17

- 理想を先に掲げて、短期像というのは、それをできるところから始めていこうというもの。立ち上げワーキンググループというのを置き、そこからできることを始めていくというのが短期像の例として書かれています。
- ここもワーキンググループというふうな言い方をしているのでいうなれば、この会をスタートにして、来年度この立ち上げワーキンググループというものに、このメンバーがイコールになるのかはわからないけど、来年ソーシャルデザインセンターの最初スタートというのが立ち上がるというイメージ。
- この続きというかSDCの検討がどうなるか見てみたいのは、最高の目標は来年何か立ち上がってる、ということです。本当にガチガチのものをつくっていくというと、結構しんどいと思うので、すごく身軽なシステムをつくっていく。
- だから今年の目標はそういう来年どこから一歩を踏み出すかがゴールにしたいなと思っているということです。

20：26

- そんな案を去年出したところ、色々な御意見をいただきました。抜粋していきますと、まず **SDCのあり方・考え方・進め方**というところと、どうやって実施するのかという具体的なロードマップだという話が出ています。例えば短期はそうだし、どこまでいったら中期なのかとかというのを議論できたらいいなと思っています。
- そして**人の巻き込み方**、というところなんですけど、若い人・働く世代・少し手伝いたい世代が地域のパートタイムのように気軽に関われる道があるとか、多様な人が参加できるようにするのが大事、というのもあります。
- 相関図とかを書いていたので、すごくたくさんの人がつながっているような印象があるんですけど、逆にいうとそこにいない人、「その相関図なんか知らない」っていう人はめちゃくちゃたくさんいるわけで、そういう人たちにどう関わっていくのか、知っていただくのかという視点もものすごく大事だと改めて思います。
- そして、**SDCの取組**について、という真ん中のところには、相談窓口を設置した際に、区役所とのすみ分けが気になる。結局、区役所では相談をするっていうようなイメージがあるけど他のところには相談できるのかな、というような話もあるかもしれない。
- あとラウンドテーブルに誰がつくのか、誰がその座組みを決めるのか、そういうこともあります。

SDC の役割は区内の資源をコーディネートする役割ではないかというような話もあります。そのとおりだと思うんですけど、そういう取組のことをもうちょっと気になることを整理したということですね。

- そして、**情報発信**ということで優先順位をつける。すぐにでも始められる情報発信や課題収集、整理に取り組む。こういったものがあげられています。
- ここまで長かったんですけど、これまでの経緯です。

22：24

- 今日はここなんですね。SDC の運営を実際に考えてみて今年度末にこういうふうに立ち上げようね、というのが今の状況で、令和 5 年度以降には、その立ち上がった SDC の運営をしながら検証していくことになるだろうと思っています。
- ということで、ワーキンググループの目的と進め方に入ろうと思います。

- 今日の目的は、 2 つあって、仕組みを考える、ということ。仕組みの案はここにあります。こんなん全然良くないよとか、ここが大事だという風に忌憚なく言っていただいて、要はこれを直していく、良くしていくということが一つかなと思っています。全然足りないこともきっとあると思うので、そういうところを議論してまとめるということですね。
- 動かしてみるっていうことが大事だと思っていまして、取組を実施して仕組みの検討にフィードバックする、ということを書いています。
- 進め方としてはボードにあったんですけど、今日みたいな会、私がパワーポイントを使って説明して、っていうコンサルタントが仕切ってるみたいな会は、大きく全体ミーティングと 2 回にしようと思っているので、次にこういう形でお会いするのは年が明けてからになります。そこからもうみなさんの前に現れないわけではないけれど、要はみんなで、仕切りの中で議論するという方法じゃなくやっていきませんかという感じになっていると。この動かし方は私たちのイメージの中にもないんですよ。
- だから、例えばこうやってやったらいいよねとか、ネットで、Zoom でミーティングしようねとか、いろんなことがあると思うんで、話し合いながら個別ミーティングというのを進めていってほしいなと思って書いています。
- きっとその中には事例視察とか、こういうところを見たら参考になるんじゃないかということもあるかもしれない。じゃあここ行ったらどうですかと提案するのは我々の仕事かなというふうに思っています。
- ここ［全体ミーティング 2］に至るときに、さっきの 2 つの目的「仕組みを考える」「動かしてみる」も、必要なことをどんどん出していただくというのが、個別ミーティングの部分かなと思っているので、ワーキンググループのメンバーで決めていただいて OK ですって書いてるんだけど、すごい言いづらいですね。
- 私の立場から決めていただいて OK も何も今日、ここに座らされて何が決めていただいて OK なんだと思うわけで…。立場的にすごい微妙なんですけど、自分が世田谷で実施しているのは自分が主

体的にやっているものなので。こんな機会に、こんなものを作れる場所なんて、めったにないですよ、と思っていただきたい。押しつけがましくてあれなんですけど。

25：48

- 長期像っていうのは、こういうものをまとめていくことになると思うので、最終的に図を作ったり、選んだりするというのはこっちがやることになると思うんですけども、バンバン叩いていただいて。
- もう一つは立ち上げ時の取組機能の企画ってことで、これも試しにやってみようとか、こういうことから始めていったらいいんじゃないかみたいなこともどんどん出していただきたくて。長期像、要は叩き台を叩くものだと思ってください。さらっといきます。
- ただ大事なのはコンセプト。ここだけは今ないので、みんなで決めていきたいなと思っていて、それは何かっていうと、コンセプトの議論って難しく考えるとコンセプトで 1 年かかっちゃったりとかしがちなんで、今日はこだわりたいことっていうのをみんなにたくさん言葉としてもらいたいと思ってます。
- それがある意味まとまっていたものがコンセプトだと思っているので、キャッチフレーズとかワーディングみたいなことではなくて、ここに今日集まっているみなさんが SDC を大事にしていかなきゃいけないことがあるとしたら何か、が議論されることが一番欲しいなと思っています。
- キャッチフレーズとかもね、すごいキャッチフレーズうまい人がいればどんどん提案していただきたいし、そうじゃなかったらもうこっちでも鉛筆なめながら考えるので。
- ［長期像の］ブラッシュアップはここにあること［体制図の機能、取組、運営体制］を直していくことなので、いろんな意見をいただけたらと思っています。
- どっちかっていうと大事なのは立ち上げ時の取組機能というのが大事だなと思って。
- 企画シートって後で出てくるんですけど、そういうものを用意しますので、例えばこの 6 つの柱の中の例えば何かを実施するとしたら、こんな風なものがあったらいいよね。ラウンドテーブルも実際立ち上げるとしたらどういうふうにやるのも、細かいこと考えるのもいいし。イベントもみんなでこの問題を我が事にするためのイベントを立ち上げるとしたら、とか。それはみなさんが考えること次第で色々出てくると思うんですけど、そういう企画シートを作っていただきたいなと思っています。
- ただそれは書いた＝（イコール）やる、ということではなくて、書かれたことは来年やっていただくこともあれば、今年ちょっとやりながら考えてみる、ということもあるかもしれない。まずはなにを始められるか、ということを手を動かしながら考えられないかという風に思ってます。
- なので、やりたいこと、できることから、小さく始めてみましょう。と、さんざん話した上で、こういうまとめにしています。